

探訪 北の風景 22

札幌宮の森ジャンプ競技場 札幌市

青木和弘

ソバなどの温かい軽食を販売していた。観客席が上がって行くと、選手の着地点を近くで見ることができ迫力がある。それにしても、よくあんな高い所から飛ぶ気になれるものだと思う。まるで、木の上から谷底へ滑空するモモンガのようだと感じた。すごい。

大会会場へは、地下鉄東西線「円山公園駅」のバスターミナルからシャトルバスで行ける。バスを待つ行列ができていたので乗車まで20分ぐらいかかった。1972年の札幌五輪で、笠谷幸生、金野昭次、青地清二の金銀銅メダル独占を現地で観たという初老の男性は、「その日も、きょうのようにいい天気だった」と懐かしそうに目を細めて回想する。

この日、札幌市内は冷え込んで最低気温が氷点下8.4℃。日中の最高気温も同4.1℃までしか上がらなかった。風はほとんどないものの、日が照っていても寒い。私は、防寒ジャケットにオーバーズボン、マフラーをがっちり巻いて帽子を被り、手袋も靴下も毛糸の分厚いものを選んだ。長靴の中敷きは新しいものに取り替え、使い捨てカイロも持った。それでも野外に3時間いると指先と足先が冷えて痛くなった。

宮の森ジャンプ競技場は2005年、国際スキー連盟(FIS)の最新競技規則に合わせた改修を行い、2007年からFISノルディックスキー選手権大会が開かれるようになった。現在は、女



応援の子どもたちに笑顔で応える高梨沙羅選手

子ワールドカップも開催されている。K点は90メートルで、ヒルレコードは2012年1月7日に栃本翔平(雪印メグミルク)が記録した104.0メートルだ。

冬季オリンピック札幌大会の開催が決まった当時、70メートル級ジャンプは大倉山ジャンプ場に併設していた雪印ジャンプエを改造して使う計画だった。しかし、宮の森競技場の設計・管理を担当したパシフィックコンサルタンツ(本社・東京)によると、「敷地が狭くスタンドの面積が取れないことや、すぐ横に90メートル級があることで70メートル級の観戦者に「レベルの低い台」という印象を与えかねない」という理由で、別々に設置することになったという。1969年5月に着工し1970年11月に竣工。総事業費は3億9500万円、観客席は約3万人収容だ。ちなみに札幌五輪70メートル級ジャンプの観衆は2万2000

大倉山ジャンプ台のように札幌の中心部から望むことはできないが、その南、約1.5キロに札幌宮の森ジャンプ競技場(札幌市中央区宮の森1の18)がある。1月11日、第58回HBCカップジャンプ競技大会を観戦するために訪ねた。出場選手は女子24人、男子84人。5年ぶり出場の高梨沙羅(クラレ)、3年ぶり出場の葛西紀明(土屋ホーム)ら人気の海外遠征組みも参加するとあつて観客が増え、場内の実況解説にも熱がこもる。競技は、女子が高梨、男子は伊東大貴(雪印メグミルク)が優勝した。

会場には大型モニターが設置され、選手の様子がアップで映し出し、移動販売車が、たこ焼きや、



ジャンプ競技大会は、女子の高梨沙羅選手や葛西紀明選手の活躍で観衆が増えている（札幌宮の森ジャンプ競技場）



会場の大型ビジョンに映し出された男子優勝の伊東大貴選手

人だった。

競技場を管理する札幌振興公社によると、2014年度は、このジャンプ台で5大会が開かれ、来場者は2万7185人。選手の練習利用は年間112日。夏にはサマージャンプ大会も行われている。ちなみに大倉山ジャンプ競技場は、年間13大会、練習利用44日だが、札幌ウインタースポーツミュージアムが併設される観光施設になっていて、39万4662人が訪れている。

札幌五輪の開催で、世界における札幌の知名度は一気に上がった。地下鉄などの整備が進み、市街地の近代化も実現した。冬季のスポーツ施設が充実し、札幌がアジアにおける冬季スポーツの拠点としての地位を確立したともいえる。市は、2026年の冬季オリンピック・パラリンピックの招致を目指しているが、人口減少社会を迎えるいま、どういう未来を描いて大投資を行うのか。いま、じっくりと考えるべき時期に来ているといえるだろう。

026年の冬季オリンピック・パラリンピックの招致を目指しているが、人口減少社会を迎えるいま、どういう未来を描いて大投資を行うのか。いま、じっくりと考えるべき時期に来ているといえるだろう。